

報道関係各位

国立印刷局の工芸官による特別講義を6/26（木）-6/27（金）開催

国立印刷局におけるお札を始めとするセキュリティデザインについて



国立印刷局は、2025 年 6 月 26 日（木）から 27 日（金）に香川県立高松工芸高等学校（所在地：香川県高松市/校長：金子 達雄）にて国立印刷局の工芸官が工芸科・デザイン科・美術科の学生を対象とした特別講義を開催し、高等学校での開催は初となります。

【開催詳細】

□日 時：2025 年 6 月 26 日（木）（A B）、6 月 27 日（金）（A のみ）

A 13:20 - 13:50 「国立印刷局の事業紹介、工芸官業務の紹介」

B 15:30 - 16:00 // // // //

A 13:50 - 14:10 「セキュリティデザイン（製品ができるまで）」

B 16:00 - 16:20 // // // //

A 14:20 - 15:10 「新しいお札の紹介（偽造防止技術・ユニバーサルデザイン）・凹版実演・習作品の紹介」

B 16:30 - 17:20 // // // //

※講義の進捗によっては、講義の内容が変わる可能性がありますので、ご理解願います。

□受講対象：本学学生

□場 所：高松工芸高等学校（香川県高松市番町二丁目 9-30）

□アクセス：JR 高松駅南口から徒歩で約 16 分



取材のポイント

【 特別展示 】

- ・特別展示の一部は、動画及び写真撮影はできない作品があることを予めご承知おき願います。

【 公開講座 】

- ・講座の初めから終わりまで、通しでの録画や録音はできません。
- ・講座中、スクリーンに投影される資料画像等の動画撮影は原則できません。静止画での撮影は可能です。

【 その他・全体を通じて 】

- ・講師の表記は、「国立印刷局工芸官」または「工芸官」としてください。
- ・工芸官のフルネーム、年齢、顔は、セキュリティ上の観点から非公開です。撮影の際も、工芸官の顔が映らない、判別できない撮影をお願いします。
- ・取材や撮影の際は、報道機関であることがわかるよう必ず腕章を着用してください（公開講座の一般参加者の撮影や録音は禁止となっています）。
- ・特別講義は、授業として行いますので、進行を中断するような取材撮影は、ご遠慮いただけますようお願いいたします。

【 取材対応 】

□取材を行う場合は、事前申し込み（6月25日（水）まで）が必要です。

□取材の申込のあった方に、集合場所等や連絡事項をお伝えします。

また、特別講義における申し込み各社に対して、国立印刷局広報官室より事前レク（資料配布あり）を行いますので、予めご承知おき願います。

□事前レク

日 時：6月26日（木）12:50－13:10

27日（金）12:50－13:10

場 所：高松工芸高校会議室

*12:40 までに取材対応窓口（大社教頭）へお越しください。

国立印刷局より

国立印刷局工芸官の特別講義は、国内の芸術系・美術系大学において、専門の技術者である「工芸官」の技巧に関する講義を実施するなど、日本の文化芸術の振興に寄与した功績が認められ、令和6年度「文化庁長官特別表彰」を受賞したものです。「文化庁長官特別表彰」は、文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、又は、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々のうち、発信力の高い方や団体に対し、その功績をたたえ文化庁長官から表彰するものです。なお、今回の国立印刷局への表彰は、平成元年（1989年）に創設された「文化庁長官表彰」を含め、府省庁・独立行政法人等の国の機関としては初めて文化庁長官から授与されたものです。

【 概 要 】

国立印刷局は、日本銀行券の製造をはじめ、官報、パスポートなど国民生活に密着した製品を製造している組織です。当法人は、明治4年（1871年）に大蔵省紙幣司として創設され、国民の皆様からの「信頼」に支えられ、令和3年に創立150年を迎えました。国立印刷局には、高度なアートの力（芸術性と技能）を有した「工

芸官」と呼ばれる専門職員が在籍しており、国民経済に不可欠なインフラストラクチャーである日本銀行券やパスポート等のデザインや原版製造は、「工芸官」が担っております。

国立印刷局では、令和4年度から国内の芸術系・美術系大学の学生を対象として、高度なアートの力（芸術性と技能）を有した工芸官の高い技術と細密な彫刻を次世代に伝え、継承することが、文化・教育活動の一助に繋がるものとして、講義を開始しました。令和4年度には2大学、令和5年度には6大学、令和6年度においては4大学と1専門学校で開催し、美術や芸術を学ぶ学生のキャリアプランの可能性と選択肢を提供する機会として実施しております。

国立印刷局が製造する日本銀行券などの原版作製では、現在でも工芸官による手仕事の中核をなしており、ビュランという金属の細密彫刻に適した専用の彫刻刀が用いられます。このビュランを使いこなすには熟練を要し、長い年月と根気が必要とされます。この講義は、国立印刷局の工芸官がどのように緻密な画線を彫り進めているかを知ることができます。

このような取組は、日本銀行券に対する国民の信頼を維持するために必要な情報として、日本の伝統文化が独自性のある産業として結実した姿を外部に発信するとともに、国立印刷局におけるモノづくりが古来から続く日本文化及び伝統技能の確認、継承の場となっていること、また、工芸官のアートの質の高さが製造する製品の偽造防止技術の基盤となっていることから、国立印刷局が長年培ってきた工芸官の高い技術を国民の皆様に知って頂くことを目的とした、社会貢献活動の一環でもあります。

香川県立高松工芸高等学校 工芸科主任 上島昇二郎のコメント

本校は、日本の工芸・デザイン教育を行う公的機関の設立の必要性を強く感じ、日本各地で工業高校の創設に力を注いだ納富介次郎先生により、金沢工業学校、富山県工芸学校に続き、明治31（1898）年、「香川県工芸学校」として創設されました。昭和24年に「香川県立高松工芸高等学校」となり、現在に至っています。その後、建築科、機械科、工業化学科、デザイン科、電気科が設置され、昭和53年には美術系大学への進学を目的とした美術科が設置されました。現在、全日制7学科、定時制3学科を置き、全校約830名の生徒が在籍しています。

本校の教育方針は「自彊して息まずの精神の涵養を柱として、家庭や地域社会と密接に連携を図りながら、心身ともに健全で、創造力に富み、社会に貢献できる人間性豊かなスペシャリストの育成に努める。」と定めており、その努力目標に「本校のよき伝統を生かし、美的情操を陶冶するとともに、デザイン能力や制作技術を高め、多くの先輩の事績を継承し、美術工芸界や産業界に寄与する人材を育成する。」と掲げています。

この度の国立印刷局の凹版彫刻技術・セキュリティデザイン分野の特別講義では、緻密で繊細な技術の奥深さやその価値、芸術性と高度な技術の融合「ART」を学習することを目指しています。また、ビュラン彫刻技法の実演もあり、人間の手わざの最高峰を目の当たりにする機会は、工芸・デザイン・美術の分野で活躍することを目標とする本校生にとって、たいへん意味深く、有意義な講義と期待しています。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

香川県立高松工芸高等学校

(取材のお問い合わせはこちらにお願いいたします)

E-mail : kogei01@kagawa-edu.jp

〈工芸官に関するお問い合わせ先〉

国立印刷局 広報官室

Tel.03-3587-4210／E-mail : proffice@npb.go.jp